

# 仕合わせの和



第184号  
H. 29. 7. 1  
(毎月1日発行)

## お手伝いは 大切なもの

住職 谷川寛俊

子供が家でお手伝いをするのが当たり前という家庭もあれば、親が言わないので、それをいいことに、あまり手伝わないという家庭もあります。

あるいは子供が毎日宿題や部活動や習い事などに追われ、見ているだけで可哀相だから、お手伝いは一切させていないという家庭もあるようです。

皆さんのご家庭は、如何でしょうか？

私個人としては、時と場所にもよりますが、多少なりともお手伝いを習慣性にする事が、子供の成長に大きなプラスになると思います。私の友人で長く教育界で活躍された人の経験談を取り上げてみました。

家のお手伝いをする子供達は平均して学校の成績も良いというアンケートもあるとのこと。それは、お手伝いをする事によって、自信や自

制心や決断力など、勉強に役立つ特質を身につけることが出来、自分が家族の大切な一員なのだと思えるようになります。更に人の役に立てる大人になるための事です。つまり、自分よりも他の人の必要性を優先させる訓練が出来るといいます。

逆に親がお手伝いを何もさせない子供は、何でもしてもらえるとつい込み、これからの人生で求められる責任や勤勉さに関して正しい見方が出来ない大人になるということです。

では、いつ頃からお手伝いをさせるようにすれば良いのか。

子供が3歳になったらお手伝いをさせるべきだという親もいれば、2歳以下でも分かる範囲で手伝わせるよう勧める親もいるといます。ポイントは幼い子供は親のそばで何かをする事や親の真似をすることが大好きだということです。たとえば、オモチャを片付けたり、こぼれたものを拭いたり、洗濯物をかけたり、もう少し大きくなれば掃除機をかけたり、食事を作ったりすることもできます。要するに、子供に出来ることをさせるのです。時には子供がとても楽しそうに手伝う様子に驚かされる時もあります。

## 祝 開創500年

「仕合わせの和」  
と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。

編集・発行  
玉蓮山 真成 寺  
編集部 谷川久仁子  
TEL・FAX 0765-22-2268  
携帯 080-3744-2523  
こちらの番号でもお寺につながります。

要は、結果より、目的に目を向けることが大切なのだという事です。時には、子供が1つの仕事を終えるのに、親が考えているよりも、はるかに時間がかかるかもしれない。また、それほど上手に出来ないこともあるでしょう。ここで注意しなければならぬことは、親が自分でやってしまえば、簡単なことですが、それをグーツと堪えて優しく見守ってあげることなのです。又、子供に大人のようなレベルを求めるのではなく、責任感を学ばせ、お手伝いする喜びを体験させることにあるのではないのでしょうか。

なるほど、と頷けると同時に、早速ためしてみたくくなります。

